

ホームページへの掲載		
済	7月13日	掲載

岐阜県立多治見高等学校

学校長 水口 猛
学校住所 多治見市坂上町9-141 電話 0572-22-4155

- 1 会議の名称 岐阜県立多治見高等学校評議員会 (第1回)
- 2 会議の構成
- | | | |
|----|-------|-------------------|
| 委員 | 伊藤ゆかり | 本校卒業生 |
| | 加藤 芳美 | 旧本校育友会役員 |
| | 小境 邦裕 | 多治見青年会議所理事長 |
| | 匹田 浩司 | J R 東海多治見駅首席助役 欠席 |
| | 村松 敦子 | 多治見市養正公民館館長 |
- (委員名は五十音順)
- 学校側
- | | |
|-------|-------------|
| 水口 猛 | 校長 |
| 今井 雅人 | 教頭 |
| 尾形 昭 | 事務長 |
| 西田 智子 | 教諭 (教務主任) |
| 加藤 元規 | 教諭 (生徒指導部長) |
| 松田 琢磨 | 教諭 (進路指導部) |
| 堀 裕邦 | 教諭 (特別活動部長) |
| 石川 浩 | 教諭 (教務部) |
- 3 会議の目的 学校運営や教育活動について地域社会や保護者などに説明責任を果たすとともに、要望や意見を幅広く聞き、地域社会からの支援・協力を得て、それを反映できる開かれた特色ある学校づくりを推進する。
- 4 会議の開催 平成30年 6月28日(木) 14:20~16:30 多治見高等学校校長室
委員4人と学校側7人が出席
- 5 会議の概要

学校からの説明

○ (学校長)

学校内の様子、授業の一部を見ていただきました。授業参観の感想も含めて各分掌の長から取り組みをご説明しますので、忌憚のない意見を伺いながら、その意見をもとに学校としていろいろな面で改善を図って、さらにより学校づくりに努めて参りたいと思いますので、今日はよろしくお願い致します。

○ (教務部より)

当校は「一人一人の文武両立」を目指すということで、部活動にも勉強にも頑張る生徒を応援する態勢を大事にする学校である。教育目標に「高校生活のあらゆる場において」とあるように、勉強だけでなく人としての成長を考え、部活動や委員会活動、生徒会活動も大切にして心豊かな青年を育成するという大きな目標として掲げている。

具体的には、例えば月曜日と木曜日を学習優先日、火曜日と金曜日を部活動の優先日という形にして学校のシステムの中で部活も勉強もできるような形を整えて調和の取れた生徒の育成を大切にしている。また豊かな情操と人間性の育成のために六年前から朝読書をしてい

て単に勉強だけでなく、心豊かな人を育てたいということで取り組んでいる。人とのつながりを大切にすることで、アクティブラーニング（AL）と言って、生徒同士が意見交換をしながら理解を深めることを大切にしている。そのためには、クラスの中に安心感がないと駄目なので、人とのつながり・コミュニケーション能力を大事に育てている。

一年生から単位制が導入された。単位制の大きな特徴としては、原級留置がなく卒業までに取得すべき単位のみが明記されるということが基本となっている。もちろん進学校としての実績があがるようなクラス編成や科目選択のしくみが整えられており、1年生では標準クラス、2年生では特進クラス（文理各1クラス）ができ、3年生では多くの選択科目を設けている。また5クラス募集を6クラスで展開しているので、今までとくらべて1クラスの定員が大幅に少なくなり、さらに3年次で選択科目が増えるために1人1人の学習状況が把握しやすく、授業の中で生徒が主体性を発揮しやすくなると考えている。これは先述したALを実施するうえでも効果的である。

○（進路指導部より）

難関大3人を含み、国公立大50人合格を目指したい。過去には名大6人の時もあり、昨年度国公立35人だったところを50人に引き戻したい。

「開かれた進路指導の推進」ということで、保護者等の協力を得て1年生の段階で「進路まるわかり講座」、2年生で卒業生と語る会を実施している。ゼミ学習では、多治見市のビジネスプランに応募し街作りを考えたり、ボランティア等外へ向かって活動することを実行している。

キャリア教育では、目先の進路指導だけでなく、途中で専門学校等を辞めるミスマッチのないような指導、職業と同時に人生観を含めた指導をしなければいけないという観点で取り組んでいる。1年生では「キャリアノート」（授業や家での生活を細かく書くノート）を書かせて、自分のポートフォリオ、自分史として自分の生活や学びを振り返ることができるようにしている。

○（生徒指導部より）

生徒指導の取り組みとしては、4年間大きな変化はありません。

生活指導面では、安心・安全と生命尊重を中心にしている。生活習慣としては、昨年度の反省として「あいさつ運動」に力を入れ取り組んでいる。毎朝校長を先頭に校門で指導している。

教育相談と特別支援教育に関わる部分を手厚く丁寧に行っている。スクールカウンセラーによる生徒講話や教員研修を行っており、人と人との関わり方やソーシャルコミュニケーションについて講演して頂いた。

特別支援教育については、保護者の申し出にもとづいて、主治医・心療内科医と連絡を取りながら個別の教育支援計画を作成している。いじめについては早期発見・対応に心掛けている。

○（特別活動部より）

方針として、①生徒の達成感満足感が得られる活動を行う。②生徒の自主的活動を支援していく。③部活動への積極的参加により、集団や学校への帰属意識を高める。④地域活動への関わりにより、思いやりや奉仕の心を育てる。の4点が挙げられる。行事を通して、生徒の自己有用感、達成感、満足感を高めていきたい。ホームページにも行事後すぐに内容等を掲載していく。

新しい取り組みとして、校長との座談会を1ヶ月か2ヶ月に一回行う予定である。生徒の意見を校長に聞いてもらい、学校運営に取り入れてもらえればと思っている。参加生徒にも好評である。

MSリーダーズは生徒指導と連携で引き続き地域に貢献していく。1部活1ボランティアとして7月11日「あいさつで絆の日」に多治見中と養正小であいさつ運動を展開し、いろいろな形で積極的に活動し、生徒の気持ち、志が高まればと思っている。

大会結果として陸上部、弓道部が東海大会へ出場。水泳もこれから東海大会へ。他には科

学部も全国高校文化祭へ出場する。こういった成績もHPで紹介する。

○（教頭より）

県指定の次期学習指導要領を見据えたカリキュラム開発事業としてAL型授業推進を行っている。今年はその実践研究最後の3年目で11月に研究発表を行う。この研究の背景には校訓（進取・努力・創造）のうち「努力」はできるが、「進取」・「創造」が弱いという本校の生徒の課題がある。入試においても記述式や深く考えることが必要な問題が出される新入試が始まる。その対策としても有効であるという観点から研究を行った次第。授業はペアで考えたり、前で発表したりと生徒主体で生徒が学習の中心となりつつあるが、形だけでなく中身が「深い学び」になっているかが十分でない。3年目として深い学びをどう実現するかを考えていきたい。また「問いかけ」の研究を行い、その学習効果を高めたい。最終的には教員のみならず生徒自身が問いかけられるようになるとよいと考えている。

学校評議員からのご意見・ご感想

意見 1

授業を見学して、刺激的で勉強になった。生徒はイキイキしている。コミュニケーションをとりながら授業をしている。1年生の授業で気になったのは、鞆が乱雑に置かれていて、教員が跨ぐように教室内を回っていることである。片隅に寄せたりして、通り道を作ることが大事と思う。

意見 2

1年生は人数が少なく教室内が広々しており、2、3年は窮屈そうに見えた。クラスはまとまっていて、楽しそうに見えた。鞆は気になりました。最近信じられないような殺人事件が起こっているが、子どもの発達段階でどうして起こるのか。心豊かな子を育てたいという方針は大切である。

意見 3

1年生は前向きで、みんなで作っていこうという気がする。2、3年生は自分の高校時代の授業と同じようである。選択授業が多くなるというが、高校生が自分の意思で選択できるのか。深く考えてなくて、みんなについて行くという生徒が多いのではないか。自分で決められないなら、親や教員の関わり方が大事なのではないか。企業経営しているが、高校生は主体性がなく自分で物事を決められなく、決めるのは難しいのではないかと思うことがある。そういうことに関する授業があり、決めていければ凄いと思う。

意見 4

1年生は少人数で授業が落ち着いた雰囲気であった。充実した時間が2、3年に繋がっていく感じがした。鞆は気になった。

キャリア教育の促進のうち、ポートフォリオはいいことと思う。挫折も起こるし、自分の軌跡が振り返られる。頑張ってきたことや弱いことも分かる。

公民館のサロンでは多治見高校生が遅くまで勉強し、週末教え合い真面目にコツコツやっている。学校目標ではあろうが、頑張れる資質を持った生徒というのが多治見高校生の印象である。地域で、あいさつや応援できる立場で関わっていきたい。

学 校

「豊かな心」については、生徒指導の観点では自己有用感、自分も役に立つという気持ちを育てていくことが大切といわれている。ボランティア活動や人が困ったときの援助を少しずつ体験させることで、自分でもやれるというのがいい方向に向かうと考えている。他者との関わ

りが下手で、不登校や転学になってしまう生徒がいる。「人との関わり合いの中で断られることは、嫌われているわけじゃない。」10人中自分と合う人が一人と誤ってしまっている。「合う人2人、何とかやっていける人4人、無関心な人2人、合わない2人。」こういう感覚を持たせて人と付き合っていく。こうしたメッセージを生徒たちには発している。

「選択」については、対話をしていくと生徒はこれがやりたかったと自分を発見していくことが多い。対話の機会が少ないと自分から発見できずにいる。対話の相手として教員や保護者とできると良い。自分の鏡になる大人との対話が大切であると考えている。

6 会議のまとめ（学校長より）

貴重なご意見いただき、今後少しでも学校改善に生かしていこうと考えております。これからは、生徒がもっと地域とのかかわりを持てる場を増やしたいと考えております。多治見街づくりにも参加し、公民館での催し物にも参加する予定です。また最近では豊橋のお菓子会社のお菓子のパッケージづくりなどにも挑戦しています。このように、外にも目を向けさせ、自己有用感を育てていきたいと思っております。本日はお忙しい中ありがとうございました。今後ともよろしく申し上げます。